

華岳山恩林寺発行

頭陀袋 763



令和8年1月号



写真：ばあちゃんズだより記念誌(表紙)

お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう



中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

☎506-0052 岐阜県高山市下岡本町2779

✉kagakuzan@onrinji.com ☎(0577)34-1245



<https://onrinji.com/>

ばあちゃんズの菩薩行

先日、小杉ACTさんに伺いましたら会長さん「ちよつと、これ見て。素晴らしい本を頂いたんやよ。」

(平田美知枝さんが亡くなくても一年、相棒の犬石さんがばあちゃんズだより記念誌として本にしたから読んでみてとのこと)

「私だけではもつたないからちよつと読んでみてよ。あまり立派な本なので。」開いてみると平田さんは長らくのやまゆり学園のお勤めが一区切りしたところで犬石さんと二人、お弁当を困っている人に宅配され、亡き後も犬石さんがご遺志を継いで続けられるとのこと。

話は飛びますが私らは原田和尚が主催されるホウの会の仲間で、会場はどこでも。

出張座禅の会

(和尚さん曰く、
ぐうたら座禅会)。

和尚さん自らが



座布(座布団)を持ち歩く。正座でよし、椅子でよし、壁を向いても、こちらを向いてもよし。ただ、呼吸を整えて背筋をまっすぐにいらんことを考えるな。

後入りさせていただいた私が少し驚いたのは、和尚さん曰く、「私があんた様を知るために一つ、今まで生きてきた来歴を作文に

して書いてくれんかな。」

えらい話やな。しかし相手を知るためには一番早い方法かなあ。

どうやら平田さんもこの手に乗った一人ではなかったか？私らはホウの会の会計やお世話を一手に引き受けて面倒見ていただきました。「平田さんは立派なヒトやゼナ。自分を忘れて、人様のために尽くしなさる。あの方のなさることはまさに菩薩行やな。」和尚さんは時々平田さんのご縁を喜んで話されました。

それにもう一人、ばあちゃんズの相棒、犬石先生、彼女は保育園の園長先生を長らくお勤めになり、さらにはばあちゃんズの担い手として活躍されております。

仲間でのお昼の食事会など手早く設定、会計さんの役も同時にこなされる、ありがたいお姉さまです。

本の素晴らしい内容をいちいち説明したく思いましたが、残念ながら中日新聞に先を越されてしまいました。

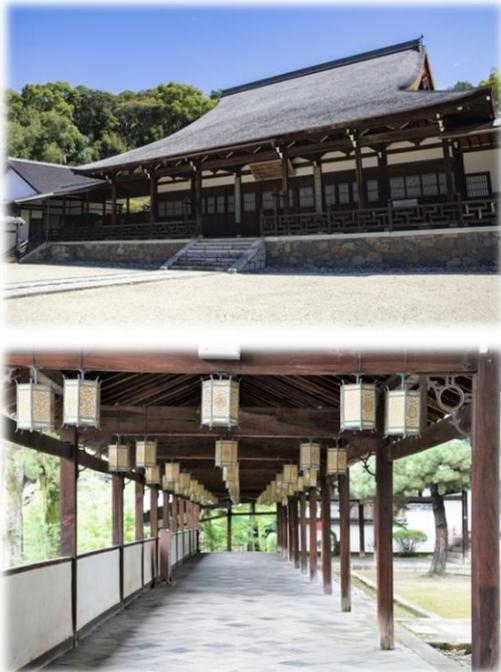
和尚様は今年の春の彼岸に。平田さんは和尚さんのお後を追うように、十月末日、旅立ちました。

黄檗宗の黄檗とは

私どもの宗旨、黄檗宗というのはなぜか？

京都宇治にあります黄檗山萬福寺は江戸時代初め、長崎の唐寺の住職が空席となり、何とか中

国から立派な和尚さんを招聘したいとのことで再三の御願いが叶い中国の黄檗山萬福寺の住職、隠元禅師が来日され幕府の援助や後水尾上皇様のご支援により禅師の故国のお寺と同じ黄檗山萬福寺を名乗ることとなりました。もともと中国での寺は臨済宗でありましたが、明治初めより黄檗宗を名乗ることとなりました。故国、黄檗山の裏山には黄檗の林があつたといわれています。



キハダは日本の山林にも自生しており、岐阜県でも飛騨市、広島県、北海道などが産地で、ベルベリンを含有し、胃腸薬に使用されております。

習い事をはじめましょう

躰という字は日本でできた漢字で日本特有のもので。三つ子の魂、百までと言います。子育てには大切なことなのですがこうした意識は希薄になってきております。今からでも遅くはありません。

伝統的なお花、お茶、着付け教室、俳句など毎日の生活に取り入れて、ひいては家庭のしつけに結びつく。伝統を重んじ文化を継承したいものです。



住職合掌

小僧さんの



雲水日誌

【第五章 一節】巡照

早朝の静寂を破り、コン、コンと響き渡る木版を叩く音。それは、まだ夜の帳が深く垂れ込める中で、萬福寺の一日を告げる最初の合図です。寺院全体に生命の息吹が吹き込まれる瞬間。この厳かで大切な寺の始まりを司るのが、「巡照」という役職です。

私は幼い頃から早起きの生活をしていたので、この仕事は平気だと思っ



しかし、その余裕はありません。眠気と戦いながら、巡照板(木版)を叩きます。そして、境内に響き渡る大声で「謹白大衆」と唱えるのです。朝から声を出すよりあくびを出す方が喉が開くような気がしました。



境内には巡照板が4つ。同じ時間に目覚められるよう、正確に、かつ迅速に、すべての巡照板を叩いて回らねばなりません。そのため、暗い中を駆け回ります。朝から走るのも一苦勞。最後の巡照板を叩く頃には息が切れておりました。

その後は総門、諸堂を順に開けていきます。明かりを灯し、準備万端になるまでが巡照の仕事なのです。

一日の終わりを締めくくるのも大切な役割。開枕太鼓(就寝前の太鼓)を鳴らし終えた後、巡照板を叩きます。

夜は皆が寝る準備をしているため走ってはいけません。ゆっくり叩き、柔らかい声で「謹白大衆」と唱えるのです。

明かりを消し、戸締りを確認して長い一日が終わるのでした。



華岳山 恩林寺

住職 古田 正彦
新堂 小森 鳳雅